

現代文基幹知識「論理的文章における基礎的語彙集」 *⇄は対義関係、**太字**は重要度のより高い語

主観・主体 みずから認識し行為するもの。

⇄

客観・客体（対象） 認識され、行為の対象となるもの。

具体・具象 多様な性質からなる特定の個物の特殊性。

⇄

抽象・捨象 個物からある一般的性質のみ抽出すること。

特殊 ごく一部にのみ言いうること、時代や場所に制約されたもの。

⇄

普遍 全体に言いうること、時間・空間を超越したもの。

ローカル 局所的。

⇄

グローバル 地球規模的。

絶対 唯一のこと、他との比較をなされないこと。

⇄

相対 複数の事柄が相互に関係を有していること。

相対主義 唯一絶対の真理や価値を認めず、複数の真理や価値を許容する立場。

多元主義 複数の多様な価値観を認め、その共存を目指す立場。

一義 一つの意味しかないこと。

⇄

多義 複数の意味を見出せること。

両義 相反する性質が同時に成立すること。

ア・プリアオリ 先天的・生得的。環境に左右されない。

⇄

ア・ポステリオリ 後天的・経験的。環境に左右される。

潜在 可能性、表面化・実体化していない状態。

⇄

顕在 現実性、表面化・実体化している状態。

虚構・仮構・擬制 フィクション、人為的な創造物。

物語 人為的に作られた虚構による説明、歴史的・社会的制約に基づく意味づけ。

観念 考え。感覚ではとらえられない思考の内容物。

概念 事物の本質的、一般的な特徴。観念の厳密な定義。

アイデア プラトン哲学の中心概念。感覚的世界を超えた本質。理念。

形象・心象 イメージ。想像される内容。

表象 知覚に基づき、言語や記憶によって意識に現れる外的対象の像。意識に再現された内容。

感覚 五感（視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚）のこと。

知覚 感覚の情報をもとに外界や身体内の状態を把握する働き。

経験 外界との接触による感覚・知覚に基づく体験の自覚。

与件・所与 与えられたデータ、感覚の内容などのこと。

感性 感覚器官の感受性。感覚に伴う衝動や欲求。

分析 事象を要素に分解して理解しようとする。解析。

⇄

総合（綜合） 部分・要素を全体へとまとめあげること。

要素還元主義 事物・現象を要素へと分析して説明する立場。

演繹 一般的な真理から個別的な真理を導き出すこと。

⇄

帰納 個別的な事象から共通の真理・法則を抽出すること。

還元 事象をその根元・原因に復帰させて説明すること。

因果律 原因と結果の関係。

⇄

目的論 物事を目的-手段関係で説明・理解すること。

説明 事物の因果的な関係など理由まで述べること。

⇄

記述 事物の特質のみをありのままに記載すること。

直観 全体を要素へと分解せず、そのまま把握すること。

了解 文化的産物や精神現象の心的な意味を捉えること。

通時・継時 歴史的・時間的経緯によるとらえかた。

⇄

共時 同時的・空間的に共在するものの捉え方。

記号 言語や言語的な働きをするもの。人間によって意味を読み取られる（意味を付与される）事物。

恣意性 記号の形（表現）や他の記号との区別の仕方が固定的ではないこと。

差異化・分節 対象・事物のうちに意味の違いや区別を見出し、記号化（命名）して二分すること。

象徴 類似性のある具体と抽象の二種の意味内容を同時に表す記号、シンボル。

カオス（ケイオス） 混沌。原初的で未分化な世界。人間によって名づけられる以前の状態。

⇄

コスモス 秩序。秩序と調和のある宇宙の状態。人間による名づけ（命名・差異化）により体系化された状態。

シニフィアン 記号における意味するもの、能記・表現。

⇄

シニフィエ 記号における意味されるもの、所記・内容。

表現 言語・記号などにおける外形的側面。形式

⇄

内容 言語・記号などにおける意味的側面。

コード 文法などの規定、約束事、記号の体系。

ラング 言葉の社会的、体系的、制度的側面。

⇄

パロール 言葉の個別的側面。個人の一回ごとの発話行為。

実体 他に拠らず、それ自体で独立して存在できるもの。

⇕

関係・関数 実体・要素間のかかわり。実体に対する機能。

唯物論 物質が世界の本体、真実在であるとする立場。

⇕

唯心論 精神が世界の本体、真実在であるとする立場。

観念論 認識の対象は外界の物自体ではなく、心の観念、意識内容であるとする立場。

一元論 真の実体は一種類であるとする立場。唯物論など。

⇕

二元論 多くデカルトの立場を指し、精神と物質とを別個の実体とする立場。

自律 他の支配によらず、自身の意志・規範に従うこと。自己決定。

⇕ オートノミー。

他律 他の命令や拘束によって行動すること。

自立 独立。他の援助・支配なしに自力で活動すること。

合目的 特定目的の手段として妥当であること。

⇕

自己目的 他に従属しないそれ自体の意義。

人間（中心）主義 人間を万物の中心として最上位に捉える立場。ヒューマニズム。人文主義。

実存 道具的な物とは異なる尊厳のある個別の人間存在。

ニヒリズム 虚無主義。既成の価値や秩序を根拠の無いものとして否定する立場。

パラダイム 認知・認識や思考の基本的枠組み。

ポストモダニズム 近代的な理念・価値・制度の成立を検証・解体し、克服しようとする立場。

イデオロギー 歴史的社会的な制約下にある、体系だった思想。偏った観念形態。

形而上学 原義は、現象の背後に在る真の本質を探究する哲学。実証的でない独断論のたとえとされる。

神話 根拠のない独断、まことしやかな作り話（物語）。

ユートピア 想像上の理想的な社会。虚構の理想郷。

リアリズム 現実主義・写実主義。「写生」。

⇕

アイディアリズム 理想主義。

ロマンチズム 現実や合理主義に抗し、個性、空想、自由などを重視する立場。浪漫主義。

理論 統一的な説明的知識の体系。実践に対する純粋な思弁、知識。

⇕

実践 実際に行動すること。倫理的、政治的行動。

ザイン ドイツ語の「存在（～がある、～である）」。事実的事柄。

⇕

ゾルレン ドイツ語の「当為（～すべきである）」。価値的事柄。

規範 法や道徳のような、判断・評価または行為の基準。規則。

禁忌 タブー。特定の社会や文化において忌み禁じていること。

ロゴス 理性、論理、言葉。

⇕

パトス 情念、感情。

エートス ある文化・社会内における、習俗・倫理。

ミクロ → 微視的。部分的で微細な物事の捉え方。

⇕

マクロ → 巨視的。全体的、総合的な物事の捉え方。

此岸 日常、世俗、現世。

⇕

彼岸 非日常、聖、生死を超えた悟りの世界。

ケ（褻） 日常的なもの、ふだん（労働・生産）。

⇕

ハレ（晴） 非日常・脱日常（祝祭・消費）。

世俗化 近代に入り、宗教的な聖性・神秘性などが希薄化し、現世的合理的な価値意識が強まること。

プロテスタンティズムの倫理 職業召命観と世俗内禁欲を特色とする新教徒の考え方。マックス・ヴェーバーによる資本主義の精神を説明する術語。労働を美德とする価値意識。

内在 事物・対象が他のものの内部にあること。

⇕

外在・超越 事物・対象が他のものの外部にあること。

契機 要因、構成要素（ときに「きっかけ」の意）。

範疇 分類枠、基本となる観念、カテゴリー。

体系 各部分を系統的に統一した全体、システム。

命題 真偽を判定することのできる文。陳述・言明。

反証 ある命題が偽であることを反例で証明すること。

類推 類似点に基づき推論すること。アナロジー。

逆説 矛盾する命題、常識に反する真理、パラドックス。

媒体 間接的に媒介するもの、仲立ち、メディア。

弁証法 否定を媒介として高次の思考へと発展する論理。

疎外 本来あるべき扱いを否定された、非本来的状態。

想起 過去のことを思い出すこと。

想定 ある状況や条件を仮そめに想い描くこと。

ヒト 生物種として、他の生物種と区別された場合の、人間の表現。

人と人との間 社会的な関係性としての人間のあり方。

共同体 前近代的な、血縁的地縁的で密接なコミュニティ。

ナショナリズム 国家主義、国粋主義、民族主義。

国民国家 近代に成立し、「国民」という共同性を求心力とする中央集権的な国家単位。

グローバル化 国民国家の枠組みが弱体化し、国境を越えて人間、情報、物資、資本などが流通する状態。

アイデンティティ 同一性、自己同一性、一貫したそのものらしさ。

強迫観念 絶えず心を占め、そうしないでは気がすまない考え。

ステレオタイプ・ステロタイプ 型にはまった画一性、紋切り型。

テキスト 書かれたもの、意味を読み取られる対象。文字データ。

コンテクスト 文脈。前後関係。全体的な場。

メタファー → たとえ。隠喩・暗喩（⇔ 直喩・明喩）。